

第15話：水無月「安全教育」

坂町の教育行政方針にも書かれていますように、昨年の7月豪雨が与えた衝撃は大きく、防災教育の在り方を見直し、復興に向けて心身ともにたくましい人材を育成していかななくてはならないと考えています。



先日、大雨の際に行う集団下校の訓練を行いました。児童は5校時終了後、自分の靴が入った袋をもって、各地域ごとに体育館に集まりました。担当する植崎教諭の指示の下、整然と集まってきました。

今年の4月から、体育館に入るときや、教室まで帰るときには、無言で静かに歩くことに加え、大切な指示を正確に聞き取るために

は、全員が黙って話を聞かなくてはならないことや、集会が終わってもおしゃべりをしないことなどについて、継続して指導してまいりました。その成果は十分出ていたように思います。

しかし、課題も見つかりました。各地域ごとに集団で下校していくのですが、全校児童が体育館を出るまでに30分以上かかっていたということです。大雨や台風の接近にともなう集団下校を考えますと、もっと短縮できないかと思いました。そのためには、各登校班グループが体育館から出る動線を増やして、時間短縮を図る必要を感じました。



また、全国では、通学途中の列に自動車が突っ込み、子どもたちが犠牲となるという、いたましい事故が生起しています。坂町では、保護者や地域の方に協力をしていただき、



各地域の通学路の危険な箇所のチェックを行っているところです。先日、坂町郵便局の交差点は、歩道が狭いわりに多くの児童が登校し、信号待ちをするため、危険防止のために、坂町からのご指導の下で、「パンダマーク」を歩道に貼りつけ、この「パンダマーク」より後ろで（車道から離れて）待つように指導しています。もし、児童の様子などで気になることがありましたら、学校にご連絡ください。

できるような指導を行っています。

自分や友達の命を大切に、安全に関する知識や技能の定着を図るとともに、安全に向けて主体的に行動

あの日から一年がたとうとしているこの時期に、安全について児童とともに、自分たちにできることを考えてみたいと思います。

校長 寺岡 成希